

福岡マリナーナにおける利用状況および利用者の意識調査

九州共立大学工学部 学生会員 三木 康彦
九州共立大学工学部 正 会 員 片山 正敏

1. はじめに

都市臨海部水辺空間の利用状況に関する調査の一環として、昨年度（福岡市立ヨットハーバー）に引き続き福岡市の福岡マリナーナにおいて、平成9年7月～8月の間、①属性・居住地、②来訪目的・来訪頻度・交通手段、③施設の利用状況、④施設利用前の意識、⑤施設利用後の意識について、「アンケート調査」を実施したので、その概要について報告する。

2. 福岡マリナーナの概要

福岡マリナーナは、昭和48年設立と古く、クルージングのための施設に重点をおいたマリナーナである。

また、マリナーナ内には、クラブハウス（ロビー、会議室、ロッカールーム、シャワールーム）、付帯設備として、給油施設・浮桟橋・修理艇庫・駐車場を整えている。舟艇の保管能力は、300艇（陸上屋外平面保管）で、面積は16,600㎡である。

3. アンケート調査の概要・場所

(1) アンケート調査の概要 (表-1 参照)

表-1 アンケート調査の概要

調査対象	福岡マリナーナへの来訪者全員
調査方法	来訪者に調査票を配布・回収
調査項目	大項目30、合計39項目
回収数	139
有効回収率	136 (97.8%)

なお、有効回収率としては、ほぼ全項目にわたって回答しているものを有効回答とした。

(2) アンケートの調査場所 (図-1 参照)

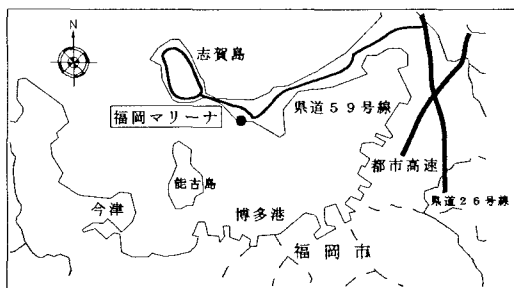


図-1 アンケートの調査場所

4. 来訪者の属性

(1) 来訪者の年齢

来訪者は、約48%が30歳代で、続いて20歳代が約41%、40歳代が約11%を占めており、そのうち約56%が艇置オーナーである。(図-2 参照)

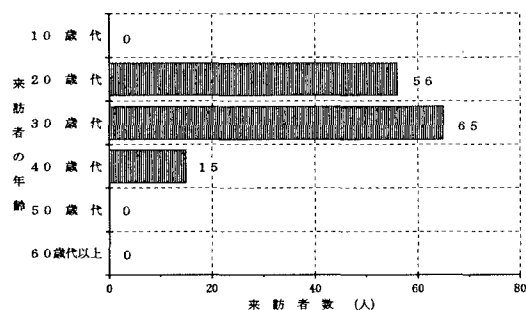


図-2 来訪者の年齢

また、来訪者の性別では、男性111人、女性25人と、男性が大きく女性を上回っている。

5. 来訪者の来訪目的・来訪回数・来訪頻度

(1) 来訪の目的

来訪目的（複数回答）では、セーリングが約45%と約半数近くをしめている。また、その他の目的としては、ジェットスキー・ウエイクボードなどのマリンスポーツを楽しむ人が多く見られる。(図-3 参照)

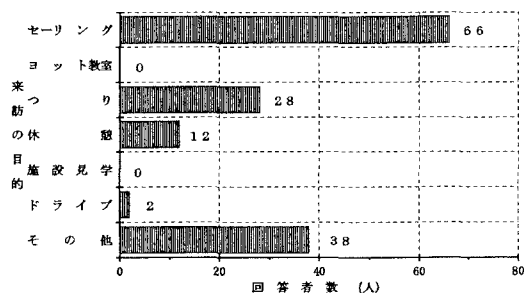
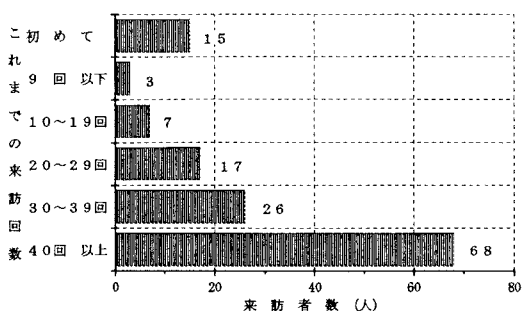


図-3 来訪者の来訪目的

(2) これまでの来訪回数

来訪回数は40回以上の人が50%と比較的多く、そのうち、ほとんどの人が艇置オーナーである

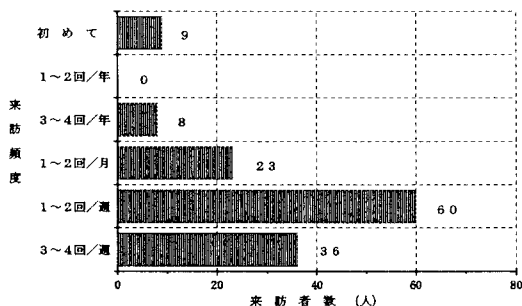
(図-4 参照)



図－４ これまでの来訪回数

(3) 来訪頻度

マリーナへの来訪頻度は、1～2回/週の人が約44%と最も多く、続いて3～4回/週の人が約26%と比較的よく利用されている。(図－5参照)



図－５ 来訪頻度

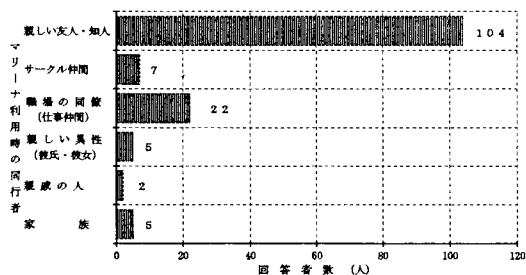
また、マリーナまでの交通手段は、公共交通機関の利用が不便なため、約93%の人が自家用車によってマリーナを訪れている。

6. 施設の利用状況・利用意識

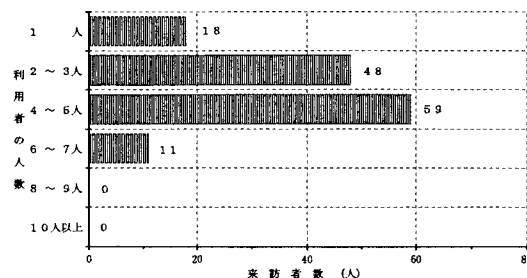
(1) 利用時の同行者・利用人数

マリーナを利用する際には、親しい友人・知人が約72%と多く、また4～5人ならびに2～3人で利用している人が比較的多い。(複数回答)

(図－6、7参照)



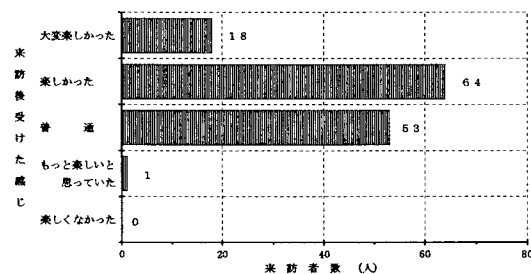
図－６ マリーナ利用時の同行者



図－７ 利用時の利用人数

(2) 来訪後受けた感じ(イメージ)

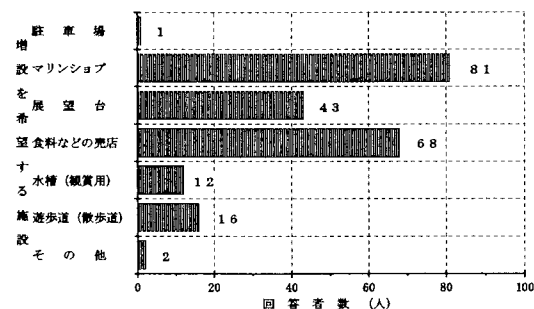
来訪者の約47%が「楽しかった」と回答し、大多数の利用者が施設を訪れて、満足感を得ているようである。(図－8参照)



図－８ 来訪後受けた感じ

(3) 増設を希望する施設

増設を希望する施設(複数回答)では、マリンショップが約36%、食料などの売店が約30%となっている。(図－9参照)



図－９ 増設を希望する施設

7. おわりに

福岡市の福岡マリーナにおける利用状況および利用者の意識についての「アンケート調査結果」より、この種施設の基本計画データが得られた。最後に今回の調査に御協力・御助言をいただいた福岡マリーナ、九州共立大学の関係者に深く感謝いたします。